

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 1階)

事業所番号	0670400969		
法人名	株式会社 ジェイバック		
事業所名	もも太郎さん 米沢		
所在地	山形県米沢市通町5丁目3-46		
自己評価作成日	平成 27 年 2 月 17 日	開設年月日	平成 16 年 2 月 16 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

接遇スローガンをもとに職員ひとり一人取り組んでより良いケアを目指しています。
毎食職員の手作りにて美味しく、楽しみながら召し上がられるように工夫して提供しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3-31		
訪問調査日	平成 27年 3月 6日	評価結果決定日	平成 27年 3月 27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年作った事業所理念の家庭的な環境づくりや地域とのふれあい、生きがいのある暮らしの実践にむけて新管理者を中心に気持ちも新たに職員皆で取り組んでいます。おいしい食事の準備(献立づくり、買い出し、下ごしらえなど)や町内の清掃活動、コミュニケーションセンターの催しに積極的に出かけるなど、何でも利用者・職員と一緒に生活には活力に満ちた笑顔の日々があります。共に暮らす地域との交流は馴染みと互いにかける関係が生まれ心強い応援になっており、これからも地域に密着して利用者と共に楽しく張りのある生活が送れるよう努力を続けている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自 己	外 部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者、職員共に理念・接遇スローガンを唱和することで共有し、よりよいサービスの実現を目指している。	理念や接遇スローガンが全てのサービスの基になることから、職員には教育委員を中心に会議等で問いかけ理解を求め話し合いをしている。理念に沿って何事も利用者と一緒にいき、明るく家庭的な雰囲気のある環境づくりを目指している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会の清掃活動や、一般市民のイベントに参加している。散歩や近所の農家での買い物に出かけたり、当事業所の夏祭りに近所の方を招いて交流を図っている。	新管理者が地元出身という事もあり、地域行事への積極的な参加で利用者も交流の場面が増え、散歩の際も気にかけてくれるようになってきている。来季は事業所から回覧板を通して発信していきたいとしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当事業所の内容や認知症の仕組みを町内会役員を通じて地域の方に発信して頂けるようお願いしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会は2ヶ月に1回開催している。町内会の役員、民生委員、衛生組合長、市職員、ご利用者様及び御家族様と当施設の取組みへのご意見を頂き、運営に活かしている。	事業所から活動状況などの報告と共に、各委員会より研修会や避難訓練、事故報告等の議題で参加者から意見をもらっている。地域包括支援センター職員の助言や町内からの応援の声が届きとなっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会に加え、介護相談員の訪問を受け入れ、ご意見を頂き、より良い事業所運営に努めている。	研修や会議等に参加して情報交換しながら協力関係を築いている。介護相談員の訪問は第三者の気づきをもらい、報告書を職員間で回覧し意識を新たにケアに活かしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみで、日中は鍵をかけていない。身体拘束は行わない介護を心がけ、ご利用者様皆様の尊厳を守るよう努めている。	内部研修で身体拘束の理解を深め、目上の方に対しての言葉遣いなど気づいた時に話し合う場を設けている。帰宅願望の方には職員間の統一した声掛けと対応で納得してもらうまで寄り添うケアで支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内に問題委員会を設置しており、法的問題、虐待防止、事故問題などを委員会・管理者・全職員で学習し、情報の共有を行っている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用し、権利擁護を受けておられるご利用様がおられたこともあり、成年後見制度について学習する機会もある。職員の研修への参加も積極的に行っており、実際の場面に活かせるようにしている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や内容改定時、解約時には、御家族様に納得して頂けるまで丁寧な説明をしている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ご利用様に担当職員が関わり、要望等をお聞きしている。 御家族様に対しては面会時や電話などでお聞きし、運営推進会議に反映させている。	家族の面会も多く、日頃の状況を伝え何でも言ってもらえるような環境づくりに心がけている。定期的に季刊紙と運営推進会議議事録を送付すると共に、遠方の家族には電話で連絡を取り様子を知らせて家族と一緒に泊まることもある。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、事業所内で改善シートを全職員に提出してもらっている。内容によっては個人面談も行っている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいを持って働けるよう、職員の待遇、環境改善に努めている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、職員会議内で各職員交代で講師を務め、勉強会を実施している。また、各種外部研修にも参加し、参加後には報告し、情報を共有している。	内部研修は教育委員会が立てた年間計画を基にミーティング担当の職員が講師となって実施している。また来季は実技研修も取り入れて皆で統一した介助を学び、さらなるレベルアップを目指している。	今年は新人職員が多く入所した事もあり、新人と先輩職員が共に学び育ち合う環境作りに期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修会、勉強会に参加し、意見交換し、サービスの質を向上させるべく努力している。	米沢市介護相談員派遣事業主催のグループホーム意見交換会に参加して問題点などを事例をあげながら話し合い、サービスの質向上に役立っている。また、交換実習で互いに参考になる所を得てサービスに活かしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して生活を送ることができるよう、初期の時点からご本人様の実態調査を行い、アセスメント・ケアプランに盛り込み、ご本人様の安心を確保するための関係づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査でご本人様・ご家族様の思いを受け止め、より良い信頼関係を築く事が出来るように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様の話を聞き、望まれていることを適切に判断し、対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様、職員が協力し合い、安心して過ごせるような関係を築いていくように努めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「家族の絆」を理念とし、ご家族様の面会時や電話での報告を通して情報を共有すると共に、日々のご本人様の生活をご家族様と一緒に支える関係を築いている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方との交流が出来るように、気軽に来て頂ける環境を整えたり、働きかけを行ったりしている。 外出の際は馴染みの場所に立ち寄る等し、昔の話をしたりしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が楽しく過ごして頂けるように、一人ひとりの様子をみて職員が入居者様と一緒に支え合える関係づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	解約後も、ご本人様・ご家族様から相談があれば随時応じている。また、必要がある場合は解約後の状況なども確認、フォローさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の生活歴や嗜好などをご本人様やご家族様からお聞きし、入居前の生活スタイルを尊重した環境づくりに努めている。また、その環境づくりの為に職員間で話し合いをしている。	利用者の意向は関わりの中でさりげなく聞き取り、申し送りノートやボードに記載して職員間の共有を図っている。利用者一人ひとりのニーズに応え、一緒に行うことで気持ちも解り安心できる環境で過ごしてもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や入居中の面会時、日々の生活の中での会話などから、これまでの生活スタイルや生活環境などを聞き取るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムを知り、その方の自由な時間に無理なく自宅で過ごされていた時のような生活を送って頂けるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月ごとにカンファレンスやモニタリングを行い、意見を出し合い、生活支援計画に反映している。	介護計画は自立支援を一番に、出来ることはやってもらい出来ない所をサポートすることに留意して作成している。現場の意見を取り入れながら、更新時の1か月前には家族等に説明し、その後確認をもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には生活支援計画を基に記入し、気付いたこと、日々の出来事も記入し、職員間で情報共有をしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内から物品購入したり、町内清掃や町内の行事などにも参加して楽しむことができている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回往診に来て頂いている。その他の医院にかかっている方に関しては、家族対応や職員が通院介助を行っている。急変時は指示を仰いで適切な医療を受けられるようにしている。	ほとんどの利用者が協力医による往診を受け、他科受診の際は家族等の付き添いとしている。受診時の情報や結果は電話や口頭で家族と連絡を取り、職員間には申し送りやボードで共有し誤薬防止にも注意を払っている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護職員はいない為、日常の健康管理は介護職員が行い、特変時にはかかりつけ医へ報告し、指示を仰ぐようにしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人様の入院中は、職員が面会に行き、病院関係者からその都度状態を聞いており、状況把握に努めている。お歳暮や御年始などの挨拶でも関係づくりに努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の場合は、主治医やご家族様と相談しながら事業所でできる範囲での支援を行っている。	入居時に医療行為が及ぶ時は対応が出来ないことを説明し、本人や家族等の理解を得ている。重度化が予想される場合はカンファレンスを行い、職員間で検討し意思の統一を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内に問題委員があり、事故防止の対策と検討を行っている。また、急変時や事故発生時についてのマニュアルを作成しており、統一したケアを行っている。		/	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防職員立会いで年2回避難訓練を行っている。火災以外の緊急時対策も災害時マニュアルを作成し、職員間で共有している。		消防署立会いの下、夜間想定も含め年二回の避難訓練を行い、緊急時連絡網や避難路の確認、消火器の点検など独自の訓練も実施している。日ごろから防災担当者を中心に事業所内の点検を行い災害防止に努めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのプライバシーや誇りを大切に声掛けを行っている。羞恥心や自尊心に配慮している。		利用者の意向を汲み、料理の下ごしらえや片付けなどの役割を担ってもらいやりがいのある暮らしに繋げている。本人と家族等の思いの差がある場合などは、家族等に状態を確認してもらい理解を得て、双方の思いに寄り添っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で入居者様が希望されている事などを話せる雰囲気を作り、自己決定が出来るように支援している。		/	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりに合った援助に努め、日々楽しく過ごして頂けるように支援している。		/	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定を尊重しているが、自己決定が困難な入居者様については職員と一緒に考えている。定期的に理髪店の訪問をお願いしており、身だしなみに気を付けている。		/	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下処理や片づけを入居者様が出来る範囲で楽しく会話をしながら一緒に行っている。		利用者には買い物や農家へ仕入れに同行してもらい、毎食手作りで職員と共に食事をしている。また行事食やリクエストメニュー、回転すしなどの外食もあり楽しみとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量と水分量を把握し、不足している時には働きかけを行っている。苦手な食べ物がある方には、代替えの物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態を把握し、食後のうがいや歯磨きをして頂き、義歯の方は夜間に入れ歯洗浄剤を使用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者様に合わせてトイレへの誘導や声掛け、介助を行っている。また、間に合わなかった時にも、羞恥心や自尊心に配慮した支援を行っている。	自立の利用者が多く、排泄後の確認で一人ひとりの状況を記録し把握している。誘導や失禁時の対応は、耳元でそっと声がけをしたり手をつないで席を立つなど、羞恥心に配慮したケアをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容に配慮したり、リハビリ体操をしたりして便秘にならないように心がけている。また、必要時には主治医に相談し、排便のコントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は毎日提供している。一人ひとりが好きな温度、時間に合わせて気持ち良く入浴して頂けるように配慮している。	時間や温度など一人ひとりの好みに合わせ可能な限り毎日入浴している。自立の方は見守りの中、自由に個浴で入ってもらい、身体状況によっては二人介助やシャワー浴で安全にも配慮して季節の湯なども楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の生活習慣を知り、休息したい時には心身共に安心して安らげるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、一人ひとりの薬を把握し、服薬前には日付と名前をご本人様の前で読み上げ、服薬後の袋は捨てずに一週間取って置き、間違いのないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のレクリエーション活動や、毎月の行事を企画し、楽しみのある生活を送って頂けるように支援している。入居者様にはできる範囲で毎日の家事などをして頂いている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日にはドライブや散歩に行き気分転換を図っている。また、ご家族様と一緒にバスハイクなどにも参加して頂き、楽しいひと時となっている。地域の方とも連携し、催し物がある場合は参加し、ふれ合いを大切にしている。	花の公園へ外食をしながらのバスハイキングや、ラーメンやソフトクリームを食べにドライブしたり、語り部の会・さいど焼きなどの地域行事にも参加している。墓参りやスーパーマーケットへの買い物などの個別支援も喜ばれている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な入居者様は金銭を所持し、ご自身で使う事が出来るようにしている。買い物は入居者様が楽しみにされているので、職員と一緒にやっている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をされる場合は、番号を間違えないように、また、手紙については住所の確認をしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの環境を大切にして、安心して暮らして頂けるように支援している。ホールや浴室(脱衣室)は特に温度や湿度に注意を払っている。ホールや玄関には季節ごとの花を飾っている。	雛人形や近所の方、職員が差し入れてくれた花などを飾り季節を感じている。利用者同士の相性を考慮した配席を行い、ホールで思い思いに過ごしている。また空間除菌剤を噴霧して感染症予防に努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人様のペースで、ホールにて塗り絵や新聞、テレビを観て過ごしたり、互いの居室で昔話を花を咲かせたり、お一人で自室でゆっくり過ごされたりしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、今まで過ごされてきたままで良いので、馴染みの物を持って来て頂くように、入居時に働きかけている。また、安心して生活出来るように工夫している。	広くゆったりした部屋に仏壇や馴染みの物を持ち込んだり、テーブルやカーペットで自宅の居間のように設え、遠方の家族が面会に来て泊まったりしている。また職員の手を借り掃除や片付けをするなど、暮らし慣れた生活を続けられるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリー、廊下・トイレは手すりをつけており、安全に移動ができる。トイレや居室にはわかりやすいように目印をつけており、ご自身で気の向くままに生活出来るように配慮している。		